
我らがマジックタスクフォース！

ガルムン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我がマジックタスクフォース！

【Nコード】

N08310

【作者名】

ガルムン

【あらすじ】

突如世界中に現れた化け物たち。

現代科学で解明できないそれを「魔獣」と呼んだ。

人類は現代兵器と秘匿されていた魔法での協同作戦を開始する。

それに新人の傭兵が巻き込まれて……

俺はどうなっちゃうんだろう？

0 プロローグ

「――やっぱりな」

誰にも聞こえないように、井浦和人はそつとつぶやいた。

もつとも、それが聞こえる「人」は、もう誰も残っていないのだ
が。

敵は三体。

どいつもばっくりと開いた口から、何かの液が滴り落ちている。

味方は最後の一人がさっき倒れたばかりである。

本来ならここでソイツの名前を叫んだりするのだろうが、配属さ
れたばかりの井浦には叫びようもない。

どちらにせよ、このままではここで同じ運命をたどるだけである。

ちくしょう、と最後のマガジンの弾を敵に叩き込むと、裏路地を
潜り抜けて大通りに駆け込む。

まったく、こんなことなら昨日もつと楽しんでおくべきだった。

配属される部隊はどんなところかなーと想像して眠れなくなり、

やっと寝付けたと思えば時刻はすでに午前九時。

やっこの思いで基地にたどり着くと、部隊はすでに出撃しており、
そこにはただ俺の装備だけがぼつんと置かれているデスク。

現場に着いたときには時すでに遅く、待っていたのは「すまん、
お前の歓迎会は中止だ……」と死亡フラグ。

朝の占いでは、やはり射手座は最下位らしい。だろうな！じゃな
きゃやってらんねえよ！

後ろを振り向くと、まだ三体ケツに食いついていた。

「こんなついてない俺より不幸な奴がいてたまるか！」

と嘆くように叫んだ後に、何気なく前に目をやると、

「いたよ！」

このクソ暑いのに、マントのようなものに身を包んでいる少女が、
何事もないように普通に歩いている。

「お、おーい、早く逃げろ」

限界を超えている体からは、蚊の鳴くような声が出ただけだった。その声が届いてんのか届いてないのか、少女はこちらに振り向くと、細い木の棒のようなものを振りかざすのと同時に、井浦の周りの空気を2つの閃光が切り裂いた。

「へ？」

音を立てて、二体の敵が崩れ落ちる。

肺のようになった敵を見て、ただ呆然とするしかなかった井浦は、少女に襲い掛かるのを見て、我に返った。

井浦が危ない、と思った瞬間、奴は彼女の目の前で見えない壁に叩きつけられる。

少女はすかさずもう一度木の棒を振りかざす。

最後の一体は、大量の体液を井浦に飛び散らせて、四散した。

熱く日差しで熱せられたコンクリートに、敵だったものがはじけとんだ。

なんてこったい。

意図せず口に含んでしまった体液を吐き出すが、何かが遅かったらしい。

熱い。ものすごく熱い。

体中が、燃えるように熱い。

かすんでいく世界に井浦は、

「やっぱ今日、ついてねーや……」

そうやってその一日を締めくくると、地面に倒れこんだ。

その日、足を踏み込んだ。

踏み込んだ足は、戻せそうにない。

0 プロローグ（後書き）

今まで小説書いた事ほとんどないのに、無謀にも連載始めようとするアホがここにいます。すみません。
細々と続けたいと思います。
感想もらえたら嬉しいな↑馬鹿

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0831o/>

我らがマジックタスクフォース！

2010年10月9日02時40分発行